

令和8年度 第60回 全国野生生物保護活動発表大会

守ろう！ 野鳥がすみ続ける『ふるさと生平』



岡崎市立生平小学校

1 はじめに

岡崎市立生平小学校は、全校児童39名の小学校です。岡崎市のほぼ中央に位置し、学区には標高200～400m程度の山々が連なり、豊かな水をたたえる矢作川水系の男川が東西に流れています。山にはコナラやカシなどの自然林も多く残されており、年間を通して70種ほどの野鳥を観察することができます。

本校の愛鳥活動は、本年度で45年目を迎えます。昭和57年に県から「愛鳥モデル校」の指定を受けたことをきっかけに本格的に始まりました。昭和63年には、本校ならびに本学区を中心とした地域が、県「鳥獣保護区」の指定を受けました。愛知県野生生物保護実績発表大会には、昭和57年から連続して参加しています。活動内容については、野鳥そのものの保護から、SDGsを意識した野鳥がすみ続ける地域にするための環境保全活動へと変わってきています。

2 「知る」「守る」「広げる」「つなげる」愛鳥活動

「知る」「守る」「広げる」「つなげる」の4つの「る」を合言葉にして、野鳥をもっと大好きになって、野鳥をもっと守っていききたいと思える活動を全校で取り組んでいます。

「知る」活動は、野鳥にふれあい、野鳥について調べたり、見つけたりする活動です。「守る」活動は、これまでは野鳥を保護したり、給餌したりする活動に取り組んできました。

4年前から、本校の生活科・総合的な学習である「ふるさと学習」を中心に、子供たちが愛鳥活動を窓口にし、よりよい環境保全について考え、行動していく「考え、守る」活動として取り組んでいます。「広げる」活動は、学年や学校の取組を他学年や保護者、地域へ発信する活動です。そして、「つなげる」活動は、野鳥を守るために人と人を、未来へつなげていく活動です。私たちは、これらの活動を通して、身近な自然環境に興味・関心を持ち、主体的に関わっていくことができる子供（環境に対する豊かな感受性）、よりよい自然環境や環境保全のあり方について深く考えることができる子供（環境に関する見方や考え方）、地域の自然環境の現在や未来に思いをよせ、よりよい自然環境や環境保全を目指して働きかけをすることができる子供（環境に働きかける実践力）の育成を図っていききたいと考えています。



3 「知る」活動

(1) ウォッチングカード

登下校時に見ることができた野鳥は、その姿や特徴などを記録し、蓄積することで、野鳥に対する関心が高まると考えています。そこで、毎週火曜日と金曜日の朝学習の10分間を、ウォッチングカードをかく時間として、全校で取り組んでいます。1年生から3年生の下学年は、このカードをかくことで、たくさんの鳥を覚えていきます。



高学年からウォッチングカードの
かき方を教わる様子

5月 ウォッチングカード

1 (サンゴウキョウ)

年 名 前



ウォッチングカード

4年生から6年生の上学年は、その鳥の特徴や見ることができた場所、生態なども書きこみます。それらのカードをかいたり、見合ったりすることで、子供たちは野鳥について詳しくなっています。掲示には低・中・高それぞれのカードの見本を提示し、どのようにかくとよいのか、ポイントが分かるようにしました。また、低学年のカードは、枠の色を夏鳥（赤）・留鳥（黄）・冬鳥（青）で分けました。カード選びも楽しみながら、見た鳥がどの季節に見られるのか、自然と覚えていくことができるようになりました。

(2) 縦割り親子探鳥会

年に6回、全校を3～4班に分けた縦割り班で、探鳥会を実施しています。毎回、保護者の方にも参加を呼びかけ、岡崎野鳥の会の方を講師として招いています。巡るコースについても、野鳥の会の方と相談してその時期ならではのコースに厳選しています。野鳥の会の方が専門的にサポートしてくださるので、子供たちも多くの野鳥を探すことができ、珍しい鳥が見られた時には大喜びです。探鳥会から戻ってくると、6年生が中心となって縦割り班全員で鳥合わせを行っています。毎回約20羽程度のいろいろな鳥の名前が聞こえてきます。ハヤブサなどの珍しい野鳥も見ることができました。探鳥会で実際に野鳥を見ることができると、子供たちもさらに野鳥を好きになっていきます。



探鳥会でハヤブサを探す様子

(3) ラブバードウィーク

今年度も愛鳥委員会で「ラブバードウィーク」活動を行いました。1学期は、縦割り班ごとに、決められたターゲットバードの特性を付箋紙に書きだし、つなぎ合わせてA1サイズの大きな鳥の図鑑づくりを行いました。力を合わせて一つの鳥について詳しくまとめる中で、今まで知らなかった特性をたくさん知ることができました。完成した図鑑を廊下に掲示したところ、休み時間になると友達と楽しそうに読む姿がありました。その後、そこに記載されていることを基にクイズを作成し、全校で鳥図鑑クイズ大会を開催しました。2学期、3学期にも、クイズやレクリエーションなどで鳥に親しむ企画を考えています。



ターゲットバードの特性をまとめる児童

(4) 野鳥検定

本校では、平成22年に生平学区の野鳥情報について、蓄積したデータを基に『ふるさと探鳥ガイドⅠ・Ⅱ』を発刊しました。そこには、学校内外に設定した11の探鳥コースや、そこで見られる鳥の特徴などが詳細に記されています。これを教材として、年に6回、野鳥についての知識を問う「野鳥検定」を行っています。検定の問題を3段階に分け、低・中・高学年でそれぞれ11回のテストに合格することを目標としています。検定の内容は、

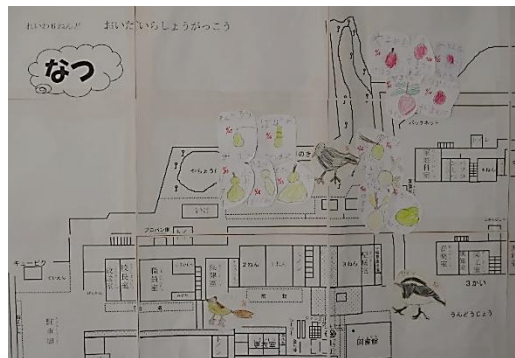


野鳥検定の問題

低学年は野鳥の写真に名前を書く、中学年は野鳥の生態を比較して答える、高学年は野鳥の生態に関すること全般です。また、低中高のウォッチングカードにかく観点がそのまま野鳥検定に生かせるようになっていきます。そして、愛鳥委員が野鳥検定に向け、最低限知っておいてほしいという要点をまとめたプリントを作成し、配付も行っています。野鳥に対する知識が高くなるとともに、学区の様子を詳しく知るきっかけの一つになっており、学んだ鳥を学区のその場所でぜひ見たいという意欲の高まりにつながっています。

(5) 1・2年生の生活科の学習

1・2年生の生活科の授業では、学校探検や学区探検の中に、野鳥見つけを取り入れています。毎年、探検活動では野鳥もいっしょにその他の気付きと同じように子供たちが見つけてくるので、校内地図や学区地図にいっしょにまとめています。校内地図や学区地図にまとめることで、季節ごとに見られる野鳥の種類が違うことに気付き、野鳥の違いからも季節の変化を感じるようになりました。



1年生が作成した夏の学校探検マップ

4 「守る」活動

(1) 3～6年生のふるさと学習

本校では昭和57年より、子供たちがふるさと生平の素晴らしさにふれられるようにしたいと考え、地域の「人・もの・こと」を教材化し、生活科・総合的な学習の時間と教科・領域とを横断的に関連させた学習を「ふるさと学習」と呼んで取り組んできました。近年では、野鳥そのものを保護する活動から、愛鳥活動をふるさと学習の構想に位置付け、SDGsを意識した「人も野鳥もすみ続けられる環境保全活動」について考えていく学習へと変わってきています。総合的な学習の時間の探究過程を大切にして、子供たちが愛鳥活動を窓口にし、よりよい環境保全や環境形成について考え、行動していく学習として取り組んでいます。学年のターゲットバードの野鳥調査から、生息数や生態の変化をとらえて「どうしてだろう」の課題を見つけ、その原因の考察や改善の方法を課題解決していくことで、よりよい自然環境や環境保全のあり方について深く考え、働きかけをすることができる子供の育成を図っていきたいと考えています。

(2) 全校で行っている「守る」活動

① 冬の給餌活動

冬季には野鳥の餌が少なくなるため、愛鳥委員会の取組として学校裏山で給餌活動を行っています。学区の方にいただいた米や果物を給餌台に置いたり、枝に刺したり、地まきをしたりします。愛鳥委員会が主催して全校児童に声をかけて、昼休みの時間に実施しています。地面に置いたミカンを好んで食べる鳥や、枝に刺さっているミカンを好んで食べる鳥がいることを6年生が1年生に教



冬の給餌活動の様子

えると、「同じミカンなのに不思議だね。じゃあ私は地面に並べてみる。」と嬉しそうに給餌活動をする姿が見られます。自分の置いた餌を鳥が食べている様子を見ることができた子供たちは大喜びです。給餌活動では、上学年の子供たちは、どのくらいの餌を与えるとよいか、どの場所に撒くとよいかなどを知っています。下学年の子供たちは、上学年の行動を見たり、会話したりする中で自然と学び、給餌方法は代々受け継がれています。

② アルミ缶回収

給餌活動の資金として、アルミ缶回収を年2回行っています。回収期間を学校行事に合わせて事前に家庭や地域に呼びかけているので、保護者や地域の方が、大きな袋いっぱいアルミ缶をもってきてくださいます。

回収によって得た資金で、新しい給餌台や餌を買うことができました。



5 「広げる」活動

(1) 愛鳥委員が作成する愛鳥新聞の発行

愛鳥委員会では、年に3回、愛鳥新聞を作成し、全学級に発行しています。また、実家庭への配付、学区への回覧を行っています。愛鳥委員全員で内容を検討し、その年に行われている各学年や学校の愛鳥活動を報告しています。配付した時に全校児童のみんなに読みたいなと思ってもらえるように、報告だけの新聞にならないように気をつけています。愛鳥委員が企画しているレクリエーションの予告、縦割り親子探鳥会に参加した方々のインタビュー、ウォッチングカードの紹介と自分たちの批評など、新たな記事も増やしています。昨年度の第2号には、生平小学校の先生の鳥にまつわるエピソードを掲載しました。下学年は4コマ漫画や野鳥クイズを楽しみにしてくれているので、今後も欠かさず続けていくように取り組んでいます。この新聞の発行によって、生平小学校の愛鳥活動の取組が多くの方に伝わり、知ってもらえることができます。探鳥会の参加者の増加や給餌用の餌を購入するために行っているアルミ缶回収への協力など、学区の多くの方への発信と協力につながっています。



愛鳥新聞 令和7年10月号

(2) ふるさと学習テーマ発表会・まとめ発表会

6月、愛鳥委員が司会を行って「ふるさと学習テーマ発表会」を実施しています。テーマ発表会は、全校児童や保護者の前で、学年のふるさと学習の追究テーマやターゲットバード、今年度の活動計画や活動の見通しについて発表し、今後の活動への意欲を高めることを目的として取り組んでいます。

年が明けた2月には、「ふるさと学習まとめ発表会」を実施しています。まとめ発表会は、全校児童や保護者だけでなく、各学年のふるさと学習でお世話になった講師の方や協力していただいた地域の方も招いて、1年間の探究活動の成果について発表し、多くの方に聞

いてもらっています。3年生以上の学年では、具体的な数値データに基づきながら、分かりやすい発表になるように発表を工夫しています。昨年度は、学校評議員の山本典弘先生から、全学年の活動に対して称賛の言葉をいただきました。子供たちもまとめ発表会に向けて学級みんなで協力して発表を頑張るので、発表後の表情は達成感と成就感に溢れています。



4年生のまとめ発表会の様子

(3) 学年による発信活動

6年生は、生平学区の素敵な自然に目を向けてほしいという思いで、四季ごとに見られる鳥や自然をまとめた生平マップを作成しました。発信するにあたって、野鳥の会の方にご意見をうかがったところ、鳥に関する情報を発信することによる弊害もあることを知りました。野鳥の住処を発信することで、多くの人が集まり、野鳥を何としても撮影しようとする人や、鳥見のマナーを知らない人によって、野鳥の生活が脅かされてしまう可能性があるそうです。そこで、「自然を知ってもらうこと」と「自然を守ること」の両立について考え、掲載する情報や表現を工夫しました。6年生は「生平学区春夏秋冬マップ」に加え、「生平で見られる野鳥図鑑」を完成させました。そして、できるだけ多くの人に見てもらえるように、地域の郵便局やコンビニエンスストアにポスターの掲示をお願いしました。このマップや図鑑を通して、生平の豊かな自然に興味をもち、その大切さについて考えてもらいたいです。



6年生が作成した学区のマップ

6 「つなげる」活動 「ふるさと生平」愛鳥宣言

令和5年度から「つなげる」活動の一つとして、未来に向けてつないでいくことに思いを馳せられるように、2月のまとめ発表会の最後に、「ふるさと生平」愛鳥宣言を行っています。各学年がふるさと学習のまとめとして話し合っただけ決めた野鳥や自然を守る行動目標を、他の学年や保護者の前で宣言し、全校児童で本年度の愛鳥宣言として採択（全校児童の総意で決定）するようにしました。環境を守るためには世代を超えたよりよい環境への想像力と人間同士の思いのつながりが重要です。子供たち一人一人の心の成長になればと思い、「ふるさと生平愛鳥宣言2026」として、すべての学級の教室に掲示しています。全校児童一人ひとりがこの愛鳥精神を胸に刻み、これからも行動していきたいと思っています。



子供たちが司会で進める愛鳥宣言の様子 「ふるさと生平」愛鳥宣言2026

1年生	とりや 生きものや 人と なかよくします
2年生	学くの鳥・人・町のすてきを、これからも見つけます
3年生	ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイが安心して暮らせるように、虫たちがはんしょくしやすい環境にします
4年生	ツバメがまた帰ってくる生平であるために、ツバメの魅力をたくさんの人に伝え、みんなで守っていきけるようにします
5年生	持続可能な形で生平の自然を守っていきけるように、次に活動する人や生き物の立場で考え、行動します
6年生	野鳥の生活環境を考え、今ある自然を大切に、野鳥を愛し続けます
愛鳥委員会	みんなで楽しく取り組める愛鳥委員会の活動をつくっていきます

「愛鳥宣言2026」

7 未来を展望する今後の活動

生平学区はたくさんの野鳥が見られます。その野鳥にふれ、体験することで、自然環境や野鳥について「知る」ことができます。野鳥をしっかりと観察したり、調査したりすると生息数や生息場所の変化に気付きます。その自然環境の変化についてよく調べ、深く考えることが大切です。その調べた考えを基に、自然保護や環境保全の方法を考え、「守る」ために自分たちができる「広げる」「つなげる」

行動をしていきたいと思います。ただし、自然保護や環境を守っていくためには多くの人の力が必要です。だからこそ、地域や社会の多くの人に社会的に発信し、環境保全の大切さを理解してもらい、みんなの力で未来の自然環境を守っていききたいと思います。

これからも、過去の先輩方から受け継いだ愛鳥のバトンを未来へつなぐことができるように、多くの人とのつながりを大切にして、人も野鳥も集まるよりよい生平にしていきます。そして、生平の「人・もの・こと」に主体的に働きかけ、持続可能な自然環境や社会の在り方を考えながら自分たちがやらなければいけない、自分たちができる野生生物保護活動を続けていききたいと思います。

